

# 郡山城の石垣について

31期生

## I テーマ設定の理由

郡山城は、ぼくの家から自転車で15分ぐらいのところにある。そこへは四年生の頃よく遊びにいった。石垣によじ登っていると「引」という字を彫った石があるのをぼくはとても不思議に思い、その石を引いたら中からお金がでてくるのではないかと、かってな想像をしていたものだ。この機会にこの謎を解明しようと思い、テーマに設定した。

## II 研究方法

### (1) 研究項目

#### (1) 石垣の積み方とその技術

郡山城の石垣は大阪城の石垣のようにきちんと積まれているのはなぜか。

#### (2) 石垣に寺院・神社の礎石・石仏が多いのはなぜか。

(ウ) なぜ寺院・神社から礎石・石仏をとってきたか。

(イ) 寺院・神社からとった礎石・石仏の種類・大きさ・分布状態はどうか。

### (2) 研究方法

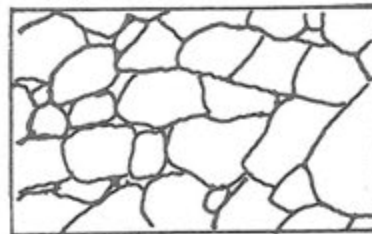
研究項目の(1)・(2)(ウ)は自分でいろいろと考えてみたり、文献やくわしく知っている人の話を参考にした。また(2)(イ)は、郡山城へ実際に調査にでかけ、石垣によじ登り変わった石があると、大きさを測り、写真をとった。(しかし、ぜっぺきで写真がとれなかったものもある)そして場所を記録し、石の名称について調べた。

## III 研究結果

### (1) 石垣の積み方とその技術

郡山城の石垣は、すきまさきまに小石がはめこんであるようなたいへん粗雑な積み方の石垣である。このような積み方を「野面積み」というそうだ。ぼくは積み方が大変へたなので、どのような人達が積んだのだろうと疑問をもった。これを調べてみると半専門的な心得のある武士達によってなされたことがわかった。そうすると全国的にも有名な近江坂本・近江八幡付近の馬淵の石工達が積まなかったのはなぜだろうか。これは、豊臣秀吉の大阪城築城の頃と郡山城築城の頃とは重なって石工達は大阪城へかりだされていたのではないだろうかと思う。また郡山城築城はたいへん急いでいて、遠くの地方から石工達をやとうことはできなかったのではなかろうか。このようなことから郡山城の石垣の技術はたいへん低いといえると思う。(図1参照)

図1. 郡山城の石垣



### (2) 石垣に寺院・神社の礎石・石仏が多いのはなぜか。

#### (1) なぜ寺院・神社から礎石・石仏をとってきたか。

郡山城の石垣の歴史を調べているうちにたいへんおもしろいことがわかった。それは、付近の寺院・神社の礎石・石仏をもちさり、石垣をつくるのに使ったことである。ではなぜそのようなことをしたのか、この点について調べてみた結果、つぎのようなことがわかった。

(ウ) 大和は内陸で石切り場が少ない。 (イ) 城の築城をいそいでいた。

(ウ) 民間信仰の高い大和の寺社の礎石・石仏をとることによって、寺社がつぶれていき、寺社の勢力への弾圧となる。 (エ) まよけの意味で利用した。

石が少ない大和では石を遠くから運びこまないといけない。しかし寺院・神社から礎石・石仏を集めれば、運搬の手間は省けるし、おまけに寺院・神社の勢力への弾圧にもなるため、一挙両得の方法であったわけだ。このようなことに寺院・神社は困りはて、なかには西ノ京薬師寺のように「石取り罰する」といった触状をだした寺院・神社もある。しかし、まよけの意味で利用したのはどういうことだろう。少しひっかかる所だ。死霊、仏魂のやどる石仏などを石垣に使うのは少しおかしいと思う。(4)のことについては少し納得しがたい。

#### (2) 寺院・神社からとった礎石・石仏の種類・大きさ・分布状態はどうか。

郡山城の石垣へいって実際に調べてみた。一口に石垣といっても、なかには堀に面していて、調べにくい石垣がたくさんあり、全部は調べきれなかった。そこで歩いて調べることができ、ちょうどどごろな大きさの天守台(天守閣の石垣)をモデルにした。また、(2)(1)の事がらについても確かめることにした。(図2参照)

(ウ) 寺院・神社からとった礎石・石仏の大きさ一らん表

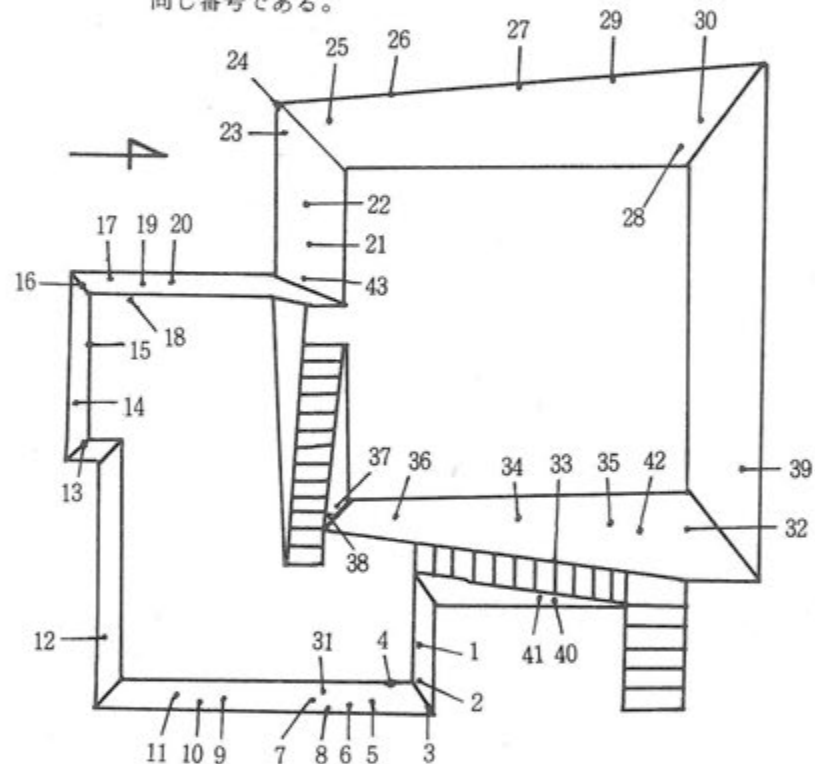
番号	名称	縦	横	奥ゆき	番号	名称	縦	横	奥ゆき
1	梵字刻石	54	36	54	18	石椀地藏	40	57	12
2	反花台座	44	13	25	19	角石	40	108	測定不可能
3	凝灰岩	60	20	100以上	20	名称不明の石	60	20	測定不可能
4	光明真言板碑	20	76	40	21	石椀地藏	41	19	40
5	反花台座	11	37	38	22	反花台座片	15	10	20
6	反花台座片	15	32	25	23	反花台座片	20	45	15
7	反花台座片	15	39	32	24	凝灰岩	110	50	70
8	名称不明の石	27	20	測定不可能	25	反花台座片	25	19	13
9	円座出柄礎石	直径100		厚さ3	26	凝灰岩	35	23	53以上
10	宝篋印塔基礎	40	25	37	27	六字名号石	25	13	14以上
11	石箱双仏石	15	37	45	28	一石五輪塔	24	24	48
12	笠石	10	20	20	29	笠石欠	15	26	10
13	方塔身	55	55	40	30	石椀地藏	44	20	80
14	反花台座片	23	14	23	31	格狭間付台座	30	18	40
15	台石	15	70	56	32	地藏石仏	15	25	45
16	方塔身	55	55	41	33	円座出柄礎石	直径75 厚さ10		
17	柄穴石	22	38	52	34	塔婆碑	35	30	72

番号	名称	縦	横	奥ゆき	番号	名称	縦	横	奥ゆき
35	名称不明の石	37	8	37	40	柄穴石	72	42	測定不可能
36	地藏石仏	12	28	28	41	凝灰岩	53	34	測定不可能
37	方塔身	61	35	63	42	名称不明の石	20	10	20
38	凝灰岩	74	36	93	43	首欠如来	26	46	65
39	サカサ地藏	石の高さ125		仏像の高さ91	(単位: cm)				

(イ) 寺院・神社からとった礎石・石仏の分布状態 — 場所を示す。 —

図2 郡山城天守台実測平面図(400分の1)

(注) 下図の番号は礎石・石仏の大きさ一らん表と同じ番号である。



(ウ) 寺院・神社からとった変わった礎石・石仏の種類

図3 礎石・石仏の種類



4. 宝篋印塔基礎



5. 柄穴石



6. 笠石



7. 塔婆碑



8. 六字名号石



9. 光明真言板碑



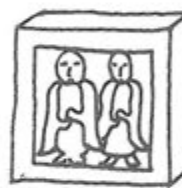
10. 一石五輪塔



11. 石椀地藏



12. 石仏双仏石



13. サカサ地藏



11~13の石仏類は石垣を作った人の誠意があってか傷がつかないようにさかさまにはめたり、まわりを石で囲んですきまを作ってあったりした。やはり、石垣を築いた人達にも石仏類への信仰心があったと考えられる。

#### IV 結論

最初いろいろと想像していた「引」という字の彫られた石は、意外にも寺社からもちさった礎石の一つだった。ほくは、石仏・礎石などで石垣を築くなんて始めて知った。強制的に寺院・神社から石をさしださせたことは、武士の権力を示す一つの方法であったと考えられる。そのように考えると郡山城の石垣はえげつない石垣に見える。ほんとうに武士が勢力をもった頃の民衆への弾圧を強く感じた。

#### V 総括

最初は、ばく然としていて何から手をつけたらよいかわからなかった。しかし調べ始めると、どんどんすすんだ。社会科学系の自由研究なので、文献にはあまりたよらないようにした。途中、思わぬ疑問点がでてきて石垣に登った。やはり社会科学系の自由研究は、歩いて歩いて調べないといけない。文献のまとめではいけないと思う。大ききの測定一つを例にしてもほくとしては必死で石垣によじ登って測定した。苦勞をすればするほど、終わった後は気持ちがいい。また、ほくの最初の疑問も解くことができてよかった。歩いて調べる社会科学系の自由研究をつづけていきたい。